京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年　紀元二千五百七十一年
本紙定價（▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢）
月曜日及び大祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料金（▲五號活字十七字詰一行一回金十五錢▲特別欄廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢）
發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　松久馬一郎
發行所　京城小門通　京城新報社　電話六六三番　振替口座京城四五六番
仁川支局　仁川宮町三丁目　電話二一一番

英國の二大政黨（二）

東京たより

●自由黨が極力其改革を絶叫して止まざる英國貴族院の現状の如何を了解するには、先づ千八百三十二年以來の歷史を知り置く必要有之候、今より七十八年前までは英國貴族院は國教大僧正、僧正等の高等教僧侶のみにて組織せられ、其員數は三百八十二人なりしが、千八百六十八年ヂスレリー内閣時代七名の新議員を僧侶外より任命せし事先例となり、爾來歷代の内閣皆之に倣び競爭的に自黨議員を貴族院内に増りつゝ今日に至り候。

●而して、今日の貴族院は皇族三名大僧正二名僧正二十四名公爵二十二名侯爵二十三名伯爵百二十二名子爵四十九名男爵三百四十名蘇國貴族代表者十六名愛蘭代表者二十八名を以て成立し此中には世襲のものあり國爵間の選出によるものありて、略我日本と同一に候

●見來れば英國の上院は貴族の集團なるが如くに有之候へど、其實は富と門地と、功勞と學識とを代表せしめたると本邦に異ならず、唯だ異なる所は國家の功勞者を貴族院に入れんとするには先づ其人に授爵をして後議席に列せしむる事にして、之れは本邦の勅選議員と其趣が違ひ居候、現に角功勞又は學識を代表しをるものが多數なることは爭はれぬ事に候。

●此貴族院に對して殆んど全廢に等しき改革をなさんとする事に候へば保守黨は鼓を鳴らして其不可を鳴らし居るものに候、保守黨曰く『今の自由黨は憲法政治に對して一大謬見を有す、即ち立憲政治と平民政治を混同し居ること是也、輿論によりて政治を行ふはよし、されど輿論を唯平民階級の聲との解するは大なる間違なり、憲政の妙用は、國民上下の可能的圓滿なる意見の一致によりて施政をなすにあるのみ少數の貴族院寡頭政治に依りて多數の平民を壓制せんとすることの暴政なるは素より論を竢たず、然れども之と同時に平民的多數政治を以て國家内の諸階級を壓制することも均しく暴政たることを知らざるべからず、自由黨が今貴族院を破壞せんとするは、即ち寡頭專制政治に正反對なる平民的多數政治を實現せんと欲するものにして、國家の危機之より甚しきはなし、吾黨元より平民の味方を以て任ず、然れども國家全體の利益に鑑みて貴族院存立の必要を主張す、何ぞ政黨に阿附するものならんや』と、其言ふ所は國民に聽かれ中々に勢力あるものゝ如かりしも、昨年十二月の總選擧にて、矢張在朝黨たる自由黨側の勝利に歸し、終に上院改革案は本年の議場に提出せられ第二讀會までを通過することゝ相成候。

●於是、自由保守兩黨に屬する中樞人物は如何なる經歷ある人なるかを紹介可致候。

最近各地金融

▲平壤　舊正月休も經過したれど輸入品は内地相場弱氣なるを恐れ入荷少なく資金は回收勝にして輸出貿易商側に於ては解氷期も切迫して雜穀買入れと資金の需用多忙を見んとする有樣なり

▲大邱　金融は舊月來舊正月の爲め閑散を極めしも月末に至り河川の解氷と米價騰貴とにより米穀の出廻り増加せし爲め漸々資金の需用を増加し稍や繁忙の姿にあり

▲木浦　當年月に至りては棉花の出廻り殆んど終了期となり加ふるに米穀の廻着微々として振はず一方輸入方面に於ける綿糸金巾石油其他雜貨等の賣行き少くして市況至つて振はず爲めに資金の需用少なく一般金融は依然として閑散の域にあり

▲城津　例年當月は大豆輸出の最も盛んなる時期なれど本年の出廻は殆ど昨年の三分の一に過ぎず從つて此の方面の資金需用多からず一方輸入品の仕入は手控のみにて大なる資金の需用を見ず金融は至つて閑散なり

●江原道漁況　あぶらめ漁獲二月中江原道竹邊近海に於てはあぶらめの回游夥だしく其の漁法は刺網及び棒受網にして此の棒受網なるものは濃厚なる魚群中に船を乘入れ棒受網を以て漁獲するものにて總計三萬尾見當の漁獲ありたり▲アミの回游　前項あぶらめに就ぎ附記すべきは同沿岸にアミ（蝦の小なるもの）の回游頗る多きを致見せる事是なり試みに漁獲したるあぶらめの胃中には實に無數のアミを充滿せるを見て之を證すべし土人の言に據れば先年アミの大群があぶらめに追はれて海濱に打上り沿岸一圓アミ群を以て滿たされ之を望めば海濱線一帶紅色に變じたりし事ありと云へり將來此のアミ漁に付一顧するの價値あるべしと思料せらる▲鱈刺網漁　二月より鱈の漁季に入り竹津、洞定、草山の各洞にては何れも該漁業を開始せるが漁況良好にして一漁船一回の從業約五六百位の漁獲ありと云ふ

外事一束

△佛國　内閣は代議院に向つて政治方針を宣言したり其綱領を茲に示せば△外交は前内閣の政策を繼承し且陸軍を擴張する意思を言明し又内閣は△未決の政治問題に對し解決を急ぎ寛容と善意とを以て政治を行ふべし△必要の場合あらば新に法律を制定し教育を教會より分離して可也と明言。△代議院は百九十五票の多數にて新内閣信任投票を通過したり但棄權者△一百に上れり之に依て見ると政府の地位は未だ安全なりと言ふを得ず。

△露國　西伯利亞漁業に關する新法案は領海十二哩主義を規定すべしと云。

△英字　新聞京津時報は清國の忍耐待策を説き無謀行動の不利益を論せり。

△羅馬　來電に依れば佛國大統領は伊太利建國紀念會に參列せらるべしと。

△長春　及吉林は鼠疫の爲殺害を極めしが投下火となり目下景氣漸く挽回。

△墺國　ガリシヤ地方の最も重要なる石油坑區に洪水あり慘狀を極めたり。

文苑

◎美の人　ふさ子

みめよき人をいつの世に
寶といひて稱へしぞ
細く凉しき眉の月
くもらん時のあるべきぞ
花の顏雪の肌
眺めはしばし一時よ
櫻の枝に海棠の
花と咲かせて芙蓉なる
色香わうとも何かせん
たらぬがちなる人の世は
夜半の嵐に消ぬやらぬ
心の花の色滑く
松の操ともろともに
千代にかわらぬためしなれ
萬代朽ちぬ寶なれ

◎鶴　ふさ子

舞ふ鶴の雲にかくれて一羽づつ
今にもふらん雪の空哉

◎春の山　同人

名もしらぬ山にも霞立うめば
ゆきてみましと思ふ頃かな

釜山の一日（一）

秀峯

雨に霽る五日六日は淋しかつた、今日は日本晴れの好日和、いざや畫の釜山を行脚しよう、先づ何處へ行かうか市街の中央に高き龍頭山に登り、全街を俯瞰して大勢を洞察しよう。

春の光りは麗々として通行く少女の顏に紅潮を帶びて、白きリボンが蝶のようう。

商業會議所の建物は、勝ち誇つた勇將の如く平淡の家屋を睥睨する、雛然たる松林の下、正しき石階がある、奇嶇羊腸、一歩々々に山は高く松は多い、行く〳〵松の梢に隱見する市街と海との景である、登り盡す十歩の圓頂臺對馬藩士、津江兵庫の碑が立つ、輕くベンチに憑れば、眼界更に雄大、近き人家は高低浪の如く、海波は洋々として、埠頭の船旗春風に飜へり、絶影の島は近く双眸に落ちて、四周の諸山、荒れたる野猪のようだ。遠波渺望對馬の空や春の風、あゝ、見よ浪に散り布く鷗の群れ、春も詫ひしき寛文の古へより、日本、戀しく啼いたであらう。

召使れ初（二の八）

暴法師

昨夕の暴風に庭の櫻は名殘なく散りて、滿地落紅、蝶の翅を疊みたる如く美し、然も昨日まではその爪に蹴落して、ちら〳〵雪の降り注ぐ落花の中に綿蠻たる聲を放ちて、春は長くその身の近にあるらんと思ふらしく、得意顏に驅け歩きし鶯か、今日は世にも物淋しく、空しき枝に羽を止めて、花は何とて枝を去りしか、枝を去りたる葩は再び枝に還ることなきか、世に唯一の友を失ひて、明日からは何を伴侶に、この庭の中飛び交さんと、流石に我れと我が心を悼むあまり、鳴く聲さへも遊り勝に、小さき頭を擡げては落花の跡を眺むるも憐れなりき

花を失ひし鶯と、酒を禁じたる老人と、その心の淋しさは孰れなるべき、佐五右衛門は爲す事もなく默然と椽側に座りありき

『お父様』と優しき聲は聞えぬ、閨の襖は徐に開きて、其處に手を支くは娘のお縫なり『只今より參りまする』

『おゝ、行くか』と宛ら死せし如き聲

『海老屋より迎ひの者も參つてござります』

『左様か』と佐五右衛門は愈よ勢ひ無く『機嫌克く致せ』

『お父さまもお身をお厭ひ遊ばしませ、春も早や逝き、梅雨の時節が目の前に迫つてござります、時候の變り目は殊更御用心が第一とござります、御健固にござりませ』

『乃公は死んでも大事ない身ぢや、此方も身體を厭ふて、隨分奉公を旨と致せよ、あゝ乃公も一國一城の主に事へて、家老職も勤めた身、時世とて是非はないも、一人娘を町人の家へ遣はすかと思ふと、この胸を張り裂く如く存ずる、お縫恕せよ』と垂頭れていふ

目に涙わかき

『勿体ない、何事を仰せござります、誰人を主に持ちませうとも、此方心に恥づる事さへなくば、天道様を御照らしござります、何万石の奥方から御召させござりますとも、鶴兵衛より所望致されまするも私の心に少しも變りなく歡び參るでござります』

『私は何時もながらそなたの心を恥ち入る、年を老ると、何故これほど愚痴になるであらうの、でも仕官の道得るまでは、何時までも禁酒の心、この誓ひ必ず忘れぬ、乃公の事は心配するな、町人ながら主となれば忠義を旨と――締へて不調法致すまい、鶴兵衛は情ある者、一跡奉公の誠を盡さば、その中に好い目を生ようさらば參れ』

『お盃はいくらも頂ひまする、なれどもお父様お身の上に萬一故障でござりましては、取り返しも付くまじき事、御大酒は爲りませいでも、少々はお藥、御持藥の思し召しで、ちとお召し喫り遊ばしませ』とお縫はぴたりと手をついて『この御返答承はりませぬ間、私海老屋へは參らぬでござります』

『海老屋へ參ればお給金も與れまする、お父様お命よりも御好物のお酒、宵々ごとに少々づゝはお召し喫りござりませ、私町人を主に持つ不幸よりも、お父様お酒をお止めなされたお不幸、どれほど深いかも分りませぬ』

『私はもう盃を手に致さぬ、昨夕深い決心を示すため、悉く打ち破つて捨てたぢやよ』

『お、お盃を……』とお縫は思はず目を瞬りぬ

『目につけば未練も起る、乃公は一生を浪人、二君に仕へる心もない、佐十郎の心も直り、伍し十人扶持五人扶持

新政と舊民（五）

於亞細亞協會 小松綠氏談

▲殖産興業の開發 は文明劫種の人民に在りては先以て農耕の改良より始めさるへからす是の事たる他國に於ては易々たることなりと雖も現今の朝鮮に於ては農耕の改良を圖らむとすれは一層溯りて水害を防き灌漑を便にする設備を爲すを要すると同時に更に ▲水源を涵養 せむか爲め ▲殖林 の事に從はさるへからす朝鮮全土に於ける殖林たる一朝一夕にして成し得へき事業に非す又政府のみの經營を以て足れりとせす一般衆民をして其の必要を了解せしめさるへからす且同しく殖林と云ふも單に樹木を繁殖して濫伐を嚴禁するのみならは事容易なりと雖斯くては建築材料及燃料を得るの途を塞き徒らに人民をして苦痛を感せしむるのみならす亦殖林の利を會得せしむる所以に非さるを以て一方に於ては伐木を許し他方に於てはより多く殖林せしむるの方法を講せさるへからす是れ建築材料及燃料を樹木に仰くを要せさる歐米人の奇異に感する所なるへきも石炭、煉瓦の使用に適せさる ▲朝鮮の現狀 に於ては敢て怪むに足らさるへし

蓋し殖産興業は其の第一着に於て先つ ▲天然の富源 に依賴せさるへからす幸にして朝鮮は冬夏共に寒熱極度に至らす地味概ね肥沃にして海には魚介充ち山には礦物あり此の點に於ては有望なりと謂ふを得へし而して之を開拓するには先以て交通運輸の便を計らさるへからす是れ總督か新政實施の劈頭に於て ▲道路の開修、鐵道の新設及港灣の改良 を企畫せられたる所以なり交通運輸の機關か獨り産業の開發に資するのみならす又文化の進歩を促かすに於て偉大なる勢力を有するは古今の定論東西事例の立證する所にして蒸氣及電氣を應用せる數くへき機關の利用は何れの國に於ても一新紀元を生し啻に物質上に於けるのみならす精神上に於ても全く舊來の面目を一新したり朝鮮の如き山壑多く人口稀薄にして遠隔の各地に散在し個人の往來物資の交換に不便なる國土に在ては殊に其の然るを見るへし若し夫れ鐵路縱橫電線蛛網の如く朝鮮全土を舉けて首尾手足の相應するか如くなるに至らしめは啻に ▲商工業 に於て ▲一大革新 を見るへきのみならす一般人民の生活狀態を改善し其の智能徳性の啓發を ▲助長 する點に於て著大の效果を奏すへきや勿論なるへし

現今朝鮮の人民か ▲運輸交通機關の缺乏 に依り如何に苦難を感しつゝあるかは詳說を要せさる所なれとも試に一二の例を擧くれは茲に僻陬の地方に在る農民か多量の收穫を得たりとせむか附近の市場に販賣して尙は餘あり因て更に之を他の遠隔の市場に搬出せむとするときは其の運輸機關は馬背人力の外なきか爲時間に於ては數日を費やし且其の賣上代金は偶以て運搬費用を償ふに足らさるか如きことあり故に農民は初めより斯かる多量の收穫を求むるも勞して功なきことを覺知し寧ろ其の生業の改善進歩を欲せさるの狀あるか如き是なり是れ單に農作物に付て其の一斑を示せるものなりと雖も其の他の製作品は勿論殊に石炭、銅、銀、黑鉛の如き重量の大なる鑛物の運搬に至らは ▲其の困難 推して知るへきのみ是れ現今に於て鐵道の沿線及海岸附近以外に於て商工業は勿論農業に於ても著しき發達を見ること能はさる所以なり又草賊兇徒の横行の如きも我か軍隊及警察の力に賴り昔日の面目を改めたるは言を俟たすと雖も今日に在りても山間僻地に於ては彼等の害に罹る者其の聲を傳へ、むとするや人馬に依賴するの外なく而して之か防禦の任に當る官憲も亦徒歩或は騎馬に依り之を追跡するに過きさるを以て其の到着に先つこと數日前兇行者は既に其の跡を晦らまし斯くて出沒自在の行動を逞ふするを得るか如き皆な職として交通運輸機關の缺欠に因らすんはあらす他日鐵道電信の設備にして完成するに至らは草賊兇徒か如斯其の横暴を肆にするに由なきは勿論農民は其の生産物を以て鄕里附近の需用を充たすに滿足せす更に萬里比隣の ▲他國の市場 に向つて其の收穫物を ▲放賣 するを得へく從て各種の天産物は有利に開拓せられ商工業亦之と伴ひて自ら隆盛に赴くに至るへし總督は玆に見る所あり新政實施の劈頭に於て既設京義鐵道改修工事の完全を期し又京仁線を改良し平南線を新設したると更に京元線及三南線の兩線の十一年計畫を五ヶ年に短縮し尙ほ漸次樞要の地方に鐵道の新設を速成せられんとする所以なり如斯鐵道施設の外港灣の修築道路の修理其の他産業の發達に資すへき事業費に充てんが爲め今期の ▲帝國議會が 特に ▲五千六百万圓の公債 を起すべき議案に ▲協賛 を與へたるは亦以て帝國官民が一致協力朝鮮の開發に盡さんとするの實情を卜知するに足るべし

東京電報（十一日）

▲日英協定成立 日英改正條約の眼目たる關稅問題は兩國政府間に交涉中の處愈協定成立したる旨電報ありたり右關稅は偏務的に非ざる由なれば或方法を以て形式的に双方協定を遂げたるものゝ如し

▲朝鮮銀行法案 朝鮮銀行法案は衆議院に於て十八名の委員附托となりたり

▲日英關稅別約 日英の關稅別約は近々調印せらるべし

▲上院と朝鮮案件 朝鮮の事後承諾案及事業公債案は貴族院に於て委員附托となりたり

▲陸軍紀念日祝宴 本日は日露戰役の陸軍紀念日に付九段坂偕行社に於ては大祝宴會を開きたり（十日）

▲海事資金銀行 日本船主同盟會は一兩日中に大藏大臣、遞信大臣に宛て海事資金銀行設置に關する建議案を提出する筈なり

▲棉花會社認可 朝鮮棉花會社は本日發起人總會を開き諸事協議したるが該會社は本月九日認可の內示を受けたる由にて成立の上は木浦に支店を設置すべしと

▲西參議官退役 軍事參議官陸軍大將西子爵は十日後備役仰付けられたり

▲櫻丸は連絡船 大坂商船會社にては義勇艦さくら丸を來四月一日午後一時神戸港に於て鐵道院に引渡し鐵道院にては四月十日より關釜連絡船に使用する由

▲獨大使出發 獨逸大使ムンム男は今十一日午後七時十五分新橋發歸國の途に就く

▲伏見若宮御病氣 朝日艦長伏見若宮博恭王殿下には艦內に於て御病氣に罹らせられたるを以て十日橫須賀軍港に入港御上陸特別列車にて高輪なる賀陽宮御本邸に入らせられ御靜養あらせらる

▲萬國人種會議 第一回萬國人種會議は本年七月二十六日より五日間倫敦に於て開催せらるゝ事となり我政府に於ても之が參列員人選中なりしが愈理學博士坪井正五郎氏を派遣する事に決定したり

雜報

●司法官に訓示 既報の如く十一日午前十時より今回の司法官會議列席の爲め滯京中なる各司法官の外倉富司法部長官渡邊高等法院長國分檢事長中村檢事長松寺檢事正司法部各課長三十餘名を總督府に召集し山縣政務總監より執務上に付一場の訓示を與へたり

京博出品準備

京都博覽會の主催に係る紀念博覽會に就ては朝鮮總督府に於ても非常の意氣込を以て參加の意を表し目下農商工部商工局擔任の下に諸般の準備中なるが今其後の經過を聞くに ▲開期は四月一日 にして餘す處僅かに三週日に過ぎざるより係員は夜を日に繼いで焦眉の急忙を極め居れり而して該博覽會の開會時期は時恰も西本願寺の遠忌式擧行に際し無慮百餘萬の善男善女全國より集合し實に空前の盛況を呈すべく隨て出品物に對する效果も亦特別顯著なる事勿論なれば總督府に在ては一層の希望を以て準備計畫中なり然れば其出品程度の如きも ▲福岡共進會以上 の費用を豫算し今明年度に亘りて約八千圓以上を投ずる筈なり而して出品物は從來の福岡名古屋の經驗に依れば其點數少量にして兎角寂寥の感あらしめたるの傾向ありしより今回は成るべく多く且つ賑かに陳列すべく決し例へば同一物品にても其量を多からしむる筈なれば總點數は非常のものたるべし同府出品の陳列所は參考館中最も注目を惹き易き處にして總面積八十坪あり此點より見るも福岡共進會以上に在る筈なり又 ▲出品物の種類 は朝鮮人を主とせる輸出入工藝品を始め農産物鑛産物水産物林産物及半島の模型等にして之を從來に比すれば種類は多からざるも總べて精撰せる新規の調達品のみなれば一倍の手數を要するか如し而して輸出工藝品は朝鮮人の工作品のみにして輸入に係るものは日本支那を問はず朝鮮人の嗜好を標準として撰び又模型は併合後朝鮮各地の狀勢に一變を來したるを以て現實に適應せるものを出品すべく目下製作中なり更に今回の出品中特種のものは ▲王家の高麗燒 なりとす何人も知る如く開地は燒物の名産地なれば特に之が貸下を得て其數三十點の多きを出品する事となれり右は現に博物館に保管中のものなるが孰れも稀代の珍品にして此機を以て朝鮮の古代美術を紹介するは强ちぬ參考に資するを得べけんか

●賣却希望の公債 恩賜公債を所持せる朝鮮人中最も巨額を擁せる貴族の面々は直接總督府へ買上の認可を出願せる由なるが元敕任二等官以下の少額のものは孰れも京城府に向つて願書を提出し居れり而して昨十日迄に受理せる總人員を聞くに實に三百七十四名の多きを算せり其金額は四千五百圓三名他は孰れも千圓以下三百圓のみにして總計三十餘萬圓を超ゆ可べし當初の出願者は ▲願意薄弱 にして ▲認可の條件を具備 せず殊に甚しきは未だ辭令のみにして本證書に接せざるものが ▲競爭的 に ▲出願 し來り殆んど際限なかりし爲め全部之を却下したるに最近受理のものは孰れも情狀の酌むべきもの多く則ち ▲債務の辨償 に供するもの九分土地買入又商業資金に投せんとする者一分の割合なりと又同府に於ては之を受理するも漫然進達を爲さず相當調査を遂げ居れるが既に進達濟のものも亦訝からずと

▲人さまく▼（四）

荻田悅造君

久振りで總務部文書課長荻田悅造君に目に掛かつた、山の如く積み嵩んで在る公文書を夫れは夫れ是れは斯くと一々按排して居る其側からドン〜復新しいのを運んで來る、幾干ら片付けても中々追ひ付きそうもない樣子、御役目とは申ながら實に御苦勞千萬な至ではないか、而して瀟洒たる脊廣の打扮は流石に洋行歸り丈けあつて如何にも甘く着こなされて御座る處が君此頃御用紙の爲めに滯英中の風流を祟つ破抜かれ面目玉を失つて進退伺を出したげな、恰かも飼犬に手を嚙まれた樣なもので、洵にハヤ同情の至りに堪へない。

●朝鮮人と阿片 阿片は朝鮮に在ても元來國禁物なりしが國境方面に於ける彼等は支那人との接近により自然之に感染し既に其癮者となれる者數萬の多きを示めせるが如し然ればとて今俄かに法令を勵行し之が取締を嚴にせんか徒らに犯罪者を檢擧するのみにて其結果や洵に恐るべきものあり故に此際何等かの特例を設けて漸禁的救治を計らんと目下研究中なりと云ふ

●鼠疫漸く衰ふ 近時防疫機關の整備し來れると氣候の關係とに依り全滿州各地の病勢漸やく衰退の兆あるは喜ぶべき所にして十日警務總監部へ奉天防疫本部より達したる公電によれば同日同本部管內には一名の新患を見ざりしと云ふ

●定例長官會議 十日午前十時より總督府に於て定例長官會議を開き山縣政務總監を始め倉富、小松總務部、木內、宇佐美の各部長官、小城鐵道の各長官代理、池田通信局長官、山形警務總長代理、俵副總裁列席政務の打合せを爲したり

●總督邸午餐會 山縣政務總監は今十一日正午總督邸に於て午餐を催し鈴谷艦長同艦乘組將校十餘名を招待し午餐會を開きたり尙は陪賓として外波武官桑原秘書官も列席したり

●總監の司法官招待 山縣政務總監は今回司法官會議に列席中の各司法官三十餘名を近く總督邸に招待し宴會を開く筈

●鈴谷艦の出港 九日鎭海灣より仁川に入港目下碇泊中なる軍艦鈴谷は明十二日午前九時拔錨旅順に向ふべし

●軍艦乘組員接待 愛國婦人會朝鮮本部にては昨今兩日見學の爲め入京せる軍艦鈴谷乘組下士卒二百餘名に對し南山紀念碑脇に接待所を設け茶菓を饗して慰問の意を表したるが右に付艦長關海軍中佐は本部を訪ひ挨拶したり

●京城民會豫算 京城民團にては豫算の基礎となるべき稅率及其他の關係案孰れも民會の決議を了したるを以て至急認可を乞ひ新豫算の編制に着手すべし而して大体は既に調査濟なれば多少の入替を爲すのみなりと云ふ

●商議臨時總會 京城商業會議所にては十一日午後一時より臨時總會を開き定款改正の件を附議せり右は地區擴張に伴ひ議員數を增加する必要あるが爲なりといふ

●陸軍紀念追悼會 既報の如く十一日午後二時より南山本願寺に於て陸軍紀念追悼會を擧行したり當日參列者は大久保軍司令官代理十時副官以下司令部附各將校及師團附各將校明石憲兵司令官代理山形中佐其の他在鄕軍人遺族百餘名にして龍山布敎監督の追悼文朗讀に次で讀經に移りそれより餘興として西田氏の薩摩琵琶茶菓等の饗應等あり頗る盛會を極めたりし

●文平山貯水に就て 京城民會よりし本部南主事大村百藏氏の建議に基き龍山文平山に在る鐵道管理局專用の貯水池撤廢を當局者に交涉すべく決議せり今其理由を聞くに該貯水池は新舊龍山の中間に介在し兩市區の接續を妨ぐる事甚しく故に京城水道の官營に歸屬せる今日之を撤廢するも毫も差支なかるべしと云ふに在り

●霧笛吹鳴の告示 朝鮮南岸港門島に設置の霧笛は本年一月一時吹鳴停止の處本月三日以後從前の通吹鳴なしをる旨總督府より告示ありたり

●仁川居留民會 十三日仁川民團にては民會開催明治四十四年度豫算案を附議する由

總督と澁澤の激論

過日寺內總督が京阪知名の實業家十數名を官邸に招き饗宴を張つた、其席上で澁澤男が會社令を携げ總督に肉薄した、曰く私の朝鮮の會社令に對する意見は新聞紙にも散見するところで多少相違する點もあるが大體に於ては異存はない、閣下は御覽になつたかドウかは知らぬがアンナ惡法を作つて企業に干涉し其發達を防碍するは以ての外の事であると捲くし懸けると▲剛情な寺內總督は敗けては居ず澁澤さんは反對の意見を持つて居らるゝかも知れぬが私は私で會社令の必要ありと考へて之を制定したのです要は法の善惡は結果の如何にある、ドウか實行後の成績を見て下さいとヤリ返す▲スルト澁澤男は寺內さんはエライ方だから法律を惡用もなさるまいが寺內さんとて百迄も二百迄も生きられる方でもあるまい然るに會社令は如何までも壽命があるから寺內さんの後に惡い政治家が出て會社令を惡用するかも知れぬ要するに甚だ懸念なるものですと喝破する▲一時は双方の權幕なか〜凄じかつたアマアで引分けられた云々（時事新報所報）

●府尹の坊長會見 大庭京城府尹は九日漢城府民會事務所に坊長を召集して彼等に會見せり彼等は孰れも相當の名望を博し居れる輩のみなるが兎角舊韓國政府財務監督局の行動に快からず思ひ今尙ほ其誤解を繼續して疑惧の念を抱き居るより懇ろに新政の方針を說示したるに今更の如く一同氷釋せりと

●黑石副官の歸任 管內南洋沿岸防疫事務視察中なりし黑石京畿道憲兵隊副官は十二日歸任の筈

●大橋主事の出張 過般來大邱、釜山、馬山、淸州、公州、水原等の各赤十字社及愛國婦人會支部視察の爲め出張中なりし本部南主事大橋次郎氏は此程歸任したるが尙ほ明十二日出發平壤、鎭南浦等の支部事務視察の爲め三日間の豫定にて出張する筈なり

●村田第二分隊歸任 過日より高陽、坡州地方視察中の村田第二憲兵分隊長

●船內通貨交換 關釜連絡船にては十日夜便より船內にて朝鮮通貨を本國通貨に交換開始したれば旅客は之に依て大に便利を得べし

▲治外法權▼

「七とせの昔の今日を偲ばるゝ御國の光りあけしなれば」コツ之れ奉天の大會戰に參加した警備隊陸軍中尉男爵佐竹義準が一昨紀念日の園遊會に於て自家の所感を詠じたものであるのだ▲紀念日の園遊會には警備將校が[illegible]見れた樣だ、而して記者の眼に止まつたのは民會議長の海津少佐、三井物產の淺野中尉、中學校の廣田中尉及び前記の佐竹中尉等であつた、海津と廣田はチヤンと軍服を着けて居たから判つた、併し淺野と佐竹とは彼等の姿勢に因つて判つた▲紀念園遊會に於ては種々の話があつたが其第一が大久保大將と宇佐川中將との警備編入談であつた、記者聞らく宇佐川の方はドウでも良い、併し寺野大將の方は高閣に束ねるには少々惜しい者だ▲宇佐川と云へば彼れの惡い事は何でも指摘する記者は過去に於ける彼れの功績をも公平に認めてやらねばならぬ、聞く每年陸軍紀念日に園遊會を開く、而して吾れも人も雄大な場所だと感心する現司令部の所在一帶の地は往年宇佐川が計畫盡力に因つて手に入つたものだ、ソレは當年の[illegible]ンコーでは無かつたのであつた▲昨年紙陸軍紀念日の記事中外國領事團が園遊會へ來たように書いてあるがアレは間違いであるのだ、實を云へば園遊會の主催者は各國領事團を招かなかつたソレでドコの園遊會へも顏を出す領事連が一人りも見えなかつたのであつた▲或人曰く紀念日の園遊會に領事團を招かぬのは露國領事への遠慮からだ、と聞いて見ればナル程ソウかも知れぬ併し紀念日は元の起りが奉天會戰の大捷にありとは云へ、今日では一種の祝日となつたものだ、此祝日に今や親交深き露人を招くことを遠慮するとはモシ本當なら難れなき事だ、思ふに此筆法で行けば米國の獨立祭には英人を招き得ない譯だ、併し今の文明世界ではソンナ遠慮は野暮の骨頂であるのだ▲野暮の骨頂と云へば京龍の歌妓俳優連が紀念日を祝さん、賑かさんが爲に催した折角の假裝行列其他を園遊會場へ入ることを禁じたのは野暮の骨頂と云べしであるのだ、アーカミシモは時に應じて着べしだ、併し年中着て居ては肩が凝つてタマラヌのであるのだ▲海外旅行免狀式に云ふと敢て其筋の諸官に希望す、天下はモウ太平になつたからチト寬いでは『ウダイ』

▲相場電報（十一日）

▲京坂同 電鑑同 大坂同 六三、八〇 六三、四〇〇 六二、七〇〇 六三、三〇〇 六三、五〇〇 出來不申

▲大坂同 株式同 同 一三四、七〇〇 一三四、三〇〇 一三三、八〇〇 一三四、四〇〇 一三四、二〇〇

▲京城乘降客

▲堀內秀太郎（德島縣內務部長事務官） 村上幸八（德島縣水產組合長）

▲釜山驛乘降客 十日の分

▲京城手形交換高



危かりし井門支店の運命

▽娼妓濱次の懺悔談

自分の口から申すのも少々可笑いけれど金山と云へば御存じの片田舍、其所へ貴郎一人ならず二人迄渋皮の剝けた若い女が舞い下りたんですもの、ナシボ外へは出ぬ様にしても七日も經つた頃には他の眼も曳けば噂にも上る何れ只の鼠ぢやあるまいとね。併し仁川の樓主の方では登夫此様片田舍へ温與に隠り返つて居ようとは氣が着くまいと多寡を括つて暢氣に構へて居た十日目頃、ノッソリ這入つて來た巡査さんが二人まで、而して有無を言はせず

仁川へ引き戻されました、夫れが貴郎馬鹿〳〵しいてつたには妾達と思つて捉へたのでなくつて妾達の逃げた跡で足抜きをした女郎衆と間違へたと云ふのですもの、樓へは歸りは歸つたものゝモウ水臭くつて稼ぐ心はありやあしませんワ、樓主の方でも左様では見込みがないと見限りを附け四百圓の處を

五十圓で奇麗に**證文を巻い**て與れました最も相當押問答の末ですよ。

存外世間は甘いものですね、横濱へ歸つた妾は、身を賣てまで貢いだ程の**可愛い男の無事な顔**が一時も早く見たくつて矢も楯もあつたものぢやない、無理な首尾して男の宿を尋ねて見ると何うでしよう、妾が仁川へ來ると間もなく

他の女と新世帶、火吹竹に紅が附くつてお定まりの樂しみ今じや野毛の何番戸に脂下つて居ますのよと宿の内儀さんの話しでしよう、眼か立たずにや居られませんや直に駆け着けて怨の丈を列べた上……トテ一時は赫となりましたがね、考へて見れば皆な妾が至らぬからだ事荒立てゝは耻の上塗り、ト沸くり返る胸を押へ何氣なく歸りは歸つたが、情けない、悲しいとよりは

口惜しいやら

殘念やらで寢ても起ても居られない、其の眼に映つたのが錦繪帖ヒヨトと披くと出たのが故人菊五郎の勤めた役の

高橋お傳の三枚續き一閑剃れた數枚を圖に斯う揮り冠つた九寸五分、見るともなしに見て居る間に、旦那、妾しや恐ろしい心になりましたの。此所迄語つた濱次の眼は異様に輝く、高橋お傳も女なら阿責ましと云ふ妾も女だ、女の血を吸ふ男の血を吸つて遣らう、懲れられ丈け懲れて試よう、併し監獄には這入らぬ如に怜悧に立ち廻つてと覺悟を決めて見ますとね、晴々として快い心持になりました。

毒婦の店開きに撰んだのが**山城の國は伏見町**、横田秀次郎と云ふ口入屋から同町の伏目樓に一ケ年の契約で前借百圓で住み込んで好色らしい樓主に一寸れ髑を据へて夫れを機會に後足で砂を蹴附けて左様ナラを極めたのが三十八年の三月末、夫れから

伊勢の山田でも前同様の手段で百五十圓を踏み倒して其の年の七月中旬

東京へ乗り出して芝愛宕町の或る下宿屋に根城を置いて高等の内侍と早替つて見たんですが何うも仕事が小さいので面倒臭くて仕方がない、元へ戻つて

料理屋荒し、馴れた方が仕事も早く四月餘りに三百兩を踏み倒し

榮耀榮華に費ひ果して下宿の二階に燻て居ると何家からか訴へたと見へて警視廳の刑事と云ふものが只今貴女の事を根掘り葉掘り尋ねて歸つて行きましたと鼻薬を利かせてある下女の注進、失策たとは思つたが何うにもならぬ、併し逃れる丈けはと痛みもせぬ

前齒を一本脱いて**金齒**を入れて**人相を變**へ駿河の**沼津**へ逃げ延びて寶來樓へ百五十圓で住み込み内**百二十圓**を告訴した家へ**送り附け**て**告訴を取り下**げさせ此家も三ケ月と五日で左様ナラとも云はないで…………（つゞく）

西大門外の晝火事

▽米國人モリス氏の奇禍

十一日午前九時半頃より西大門外鍮洞の山頂なる米國人モリス氏の居宅より出火したり同氏は鑛山業に從事し居れる資産家にて去月以來モリス氏夫婦は遂安の鑛山に出張中にて

留守宅には朝鮮人事務員四五人と下人等のみなるが突然同家東側の方より發火せしかば一同驚き火事よ〳〵と叫び出たる時恰も所轄警察西大門分署に於ては警官一同**安藤**分署長の點檢を受け居たる事とて火の手を見るや五十餘名の警官現場に驅付けしが煉瓦作りの西洋建なりしかば火は未だ全部に廻り居らぬより

日鮮巡査數十名家内に飛入り**荷物**を搬き出し一方署内備付の消火器又消防器を以て消火に從事中程もなく

徳壽宮消防手馳來りしも火勢猛烈にして隣家に燃へ移らんとせし時しも日本人**第二部**消防隊及び長谷川町なる**守備隊**第六十五聯隊より渡邊特務曹長下士卒五十餘名を率ひ消防器を携帯して驅付け續ひて

三部消防組**昌徳宮**消防手何れも驅付け西大門外にある消火水道線を利用して活動を開始し尚ほ北部警察署よりは署長

鈴木警視數十名の巡査を率ひ來り消火を指揮し第二分隊よりは

憲兵數十名驅付け消防を指揮したる効あり遂に午前十一時頃鎭火するに至りぬ發火の原因は多分煙草の吸殻より起しならんと

損害額約**十萬圓**餘なる可しと因に附近に居住する外國人は消防手警官等の働き振り目覺しきに感謝したりと

御用紙官憲を侮辱す

▽其の取消方を忠告す

曾て或る人は總督府の大小官吏を評して**去勢**せられたる官吏と云つた否唯り總督府の官吏のみならず朝鮮に於て發行せらるゝ**新聞紙**の悉くも又去勢せられたるものと評した相だ吾人は果して此の評が當つて居るか何うかは知らぬ然るに十一日發行の御用紙

京城日報紙上陸軍紀念日祝典なる題下の文中に**禮裝の宦官**云々と云ふ文字がある、吾人は淺學深く宦官の意義に通せざるも聞く所を以てすれば内宮の門戍る官人で自由に内房にも出入するを得る代りに去勢されたる官人である相な、從つて内謁の自由を有するよりして權勢官職を得んとするの輩が之れに阿附するよりして終に宮中に於ける大勢力となるに至つて終には一國の政治に容喙する様になり行いて宦官の跋扈せる**國家は滅亡**し若は衰亡に近づきつゝある**唐朝**の倒れたのも現にペルシャ、トルコの衰亡に近きつゝあるのも同國の今日を馴致して來たのも皆悉く其の爲めであるとか、近くは舊**韓國宮廷**にも之れあつて士民其の弊に堪えなかつたと、此等の歴史を有せるが故に宦官なる文字は社稷の賊と云ふ意味に解せらるゝ事に成り來つたと、常に小心翼々一字一句も苟もせざる京日紙が大膽にも

千萬言の意味を此の二字に籠めて**幾千の官人**に**警告**したるは頗る痛快の様ではあるが併し惜むらくは機會が惡い何んとなれば目下東京の新聞なぞは徒らに總督府の宦官なる語を用ゐて居る際である、御用紙たるもの愼を擧めて早く訂正すべきである

四ツ手網

◎一口噺　化物生

新文學士『夏目君は勿体ない事するナー』
古手文學士『裏番でもして僕に貰いたいよ』

記者『君は何時如何して結婚せしか』
化物生『或る夜奨忠壇にて或る日大神宮にて結婚したり終り』

議員『是から民團に視察勧誘部を設けて財源を作るが宜い』○長『賛成々々』
今度の様な視察團が毎月三回入京すると三三ケ九千圓で財源も樂になるよ

小學生『先生今度視察團歡迎費は幾等費しても宜いですね』教師『然り千五百圓費しても差引千五百圓は學校の所得です』

●奇特な鮮人水夫

朝鮮總督府航路標識管理所屬綠川丸乘組鮮人全羅南道木浦港南部洞朴販龍（二六）は前記綠川丸に火夫として住み込み日給七十錢を給せられ居たるが暫時にして水夫となり五錢を増給され眞面目に立ち働き居たりしが去る二月十四日長崎に旅行せんと同水夫を辭し準備中の所同月廿日に至り以前患ひし梅毒再發なし身体の自由を缺き大に困難し居る所同船乘組の舊友周旋の勞を取り去日より當地に親族等も無きため英國病院に入院せしめ無料にて治療中なりしも遂に十日午前十二時死亡せしかば病院より二名尚は友人某より二名の人夫を出して十一日午前十二時仁川府多死面飛龍里耶蘇の共同墓地に埋葬せり遺留品として同人が萬一に供せん爲め金二十圓余を貯蓄して居り又柳行李中には十點余の衣類等もありと實に奇特の鮮人かな

●正銀貨に鍍金す

月尾島居李鉛雲（三八）江原道春川郡東來面內當時仁川外洞雜貨商任順明（三五）江華島樵桐面炭峴當時仁川牛角洞雜貨商孫興樂（一八）の三名連行京町派出所に出頭せしが右は九日午後四時李は徃より雜貨を買入剰錢金五十錢を受取りたるに同錢貨僞造貨と認めらるゝを以三名連行派出所に屆出でたてなりと判明し趙巡查補關係取調べたる所崔は任より受領せりと云ひ何れ共判明せざるを以て本署に引致精密取調鑑定せしも全然眞貨にして孫興樂が外見を装ふ爲め故意に水銀を鍍付せし事判明依て嚴重の說諭を加へて放還せりと

●酒に呑まれて亂暴

本町六丁目柳屋理髪店雇人長崎縣人松田泰吉（二三）は十日午後十二時頃大和町一丁目五十八番戸料理店則兼エツ方にて亂暴を働き南部署に突き出され拘留五日に處せらる

●蝸甫屋で立廻り

長谷川町居住加藤嘉一郎（二八）は十日午後十時頃路洞蝸甫屋にて支那人李非甲（三四）と喧嘩の揚句說諭

●仁川捕鼠買上數

十日百十一頭にして金三圓三十三錢なり

日曜集會（十二日）

●日本基督教會　旭町四丁目同教會にては十二日午前九時より日曜學校同十時より丹羽清次郎氏の禮拜說教及び午後七時半より山口照平氏の傳道說教ある由

●京城基督教會　日の出町同教會にては十二日午前九時より日曜學校同十時より米澤牧師の禮拜說教『湖畔の筵』午後七時半より同牧師の傳道說教『永遠の人格』ある由にて參聽隨意

●微笑會例會　初音町二丁目臨濟寺に於ては十二日午後三時より圓山禪師の宗門無盡燈論例會提唱あり參聽隨意

●演藝だより

●壽座　好況なる立志團十二日の藝題は無名氏作斷腸録にて重なる配役は近藤大尉（稲葉）山岡重兵衛（青山）同重五郎（花島）同小太郎（村山）小夜子（寶井）鬼入れ松（藤島）高利貸吉田（郡）坊主秀龍（北村）羽根田の虎松（一二三）兄分八公（上田）篠原子爵（加藤）令孃れ玉（淺井）
尚十三日は德富氏作不如歸にて配役は片岡中將（稲葉）山木兵三（青山）娘豊子（寶井）母堂けい子（郡）川島武夫（花島）浪子（藤島）加藤夫人（淺井）千々岩安彦（五味）田崎（一二三）

●京城座　好評の兄弟義團十二日の藝題は菊池幽芳氏作新己が罪にて配役は寒川左近（岩村）百姓太郎作（花房）高榎度三郎（吉井）辨傳三（谷）森作十、作太郎（松澤）作十娘花子（堀江）村小使松吉（塚本）上田刑事（前澤）百姓權藏（小泉）左近妻信子（東）作十妻しま（江見）

●浪花節　好人氣なる浪花節吉田奈良丸一座十二日の語り物は天爵川佐討吉岡武勇傳（京山愛幸）後藤小金吾（吉川敷夫）伊賀の水月荒木美談（喜樂亭八）武田八劍士生柳千吉の傳（日本軒雲龍）合孃の爭因果の裁判、梅山大佐（吉田奈良丸）

朝の新町稲荷堂

地には霜白く降り敷きたるも空は流石に霽渡みし十一日の朝七時半下崩への稲荷堂の前にや〻青きを踏んで新町は稲荷堂の前に立つ絣琉球の羽織に紐の白きを胸高に緊と結んで淺黄繻絆子の帯したる二十一二の色白き美しき女が髪を洗ふて背後に垂れ其根を朝の色に映ゆる濃紫のリボンに結んだるが底事ぞ見る影もなき前垂れ掛けて手を懐に下参する深草何某の寓より二十七八の赤き手柄掛けたる丸髷姿の婦人が出る錆色のコートを洩るゝモスの襦袢の袖も長く毛皮の襟巻兩グリの下駄も軽う、拵茶屋何某の戸の外と内何やら二言三言語り交して新町方面に去る、松計り他に木もなき小山の上の赤き鳥居の下を潜る若き女房の背姿、寂しと見て祠前に凄す、下駄二足揃へて雅に祈念者の南無妙法蓮華經を繰り返す、皺嗄れし聲に六十路を過ぎし媼と知る。

下参の途に皆春樓を出でたる二人に逢ふ、昨宵の口說の如何に嬉しかりけんか微笑かけしが不圖我等と顔見合はす狼狽氣味に眼を逸らして狐鼠々々と一人は大和町方面に一人は本町方面に足早に立ち去る、昔しから戀は辛氣なものでござんす。

同じ家の玄關の家根に坊主枕の眞赤なのが投げ出してあり、髪の毛亂した其の科で邪慳に斯くもされたのか。

第一樓の前に陸軍記念日餘興觀覽券の裂き棄てられたるが二葉眼に入る、一は勸木常吉、一葉は岡苗コノ、夫婦伴れ立つ素見ゾメき然りとは罪でムんすぞへ、紹介者は日く竹内。

花柳巷の朝の寂しさ身にしめて歸る雪駄にからむ艶文、記して曰く南山町二丁目中村樣親展、後藤よりと

運の勢　日

三月十二日舊二月十二日六白辛己先勝みつ△一白　急實促進の行爲効無△一他は快放の日大抵吉旅行婚談△二行商交渉掛合事遂行利り△二黑　平静の日進んで支障なし婚談共同連盟結社の事も情の破れを戒しむ△三碧　新事旅行婚談見合ひの事金品授受及不勤產事故障起らんとす負傷遺失防くべし△四綠　不和意の日金談婚談貸借取引尤も注意すべし旅行起案開店凶盗難遺失防くべし△五黄　中裁合同商議結社連盟に融むの行事進んで吉△六白　新事旅行婚談委託貸借効無し組合委託連帯裏書保證の行爲累を貼し易し△七赤　小傷爲勝不和生じ易し新事旅行婚談見合すべし△八白　交際取引計算上にて注意の事家庭の爲め累あり他業務上紛擾爭あり△九紫　旅行婚談見合すべし家族從者の日とす新事旅行婚談貸借委囑効無し
三月十三日舊二月十　日七赤壬午友引たひら△一白　婚談中裁談合共合の事離り難く他の行事進んで吉負傷衛生注意すべし△二黑　保證受印裏書投資誘奬を斥くべし他は靜寧△三碧　酒色紛爭賭事を慎しみ職務常務の外手控謹慎の事△四綠　窮窮の日諸事扣へ目の事盗難遺失防くべし新事旅行婚談見合せの事△五黄　貸借金談保證手形發行署名の事間違ひ生ぜんとす他は平凡△六白　中運なり大凡支障無し轉業移轉分離分業紛爭解決中裁に吉△七赤　談判中裁訂約協商談合効無し新事旅行披露命名婚談轉住凶△八白　損害出費の嵩まる日なれば理義に據り節すべし他の行事大凡進んで支障なし△九紫　業務上見込違ひ思惑狂の生ずる事あり新事旅行談合婚談轉宅凶（本町五丁目三一館判斷）